

Ⅵ ま と め

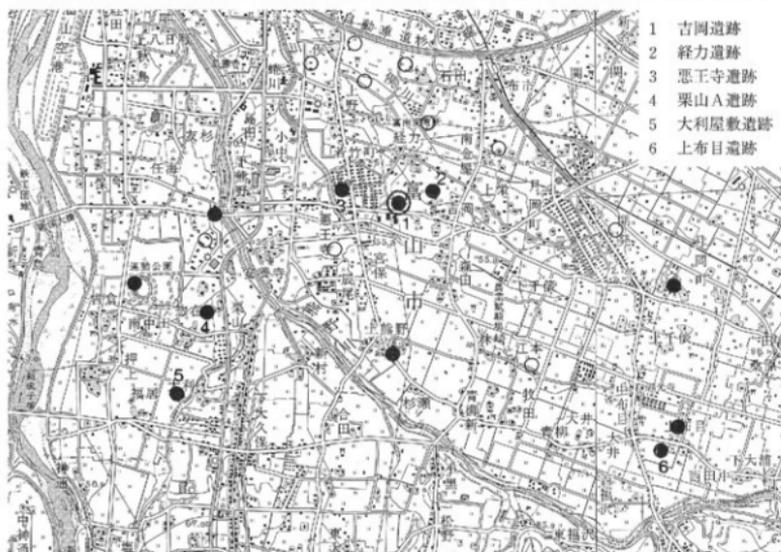
1 縄文時代晩期の遺跡立地について

吉岡遺跡では周辺地域において初めて縄文晩期集落の形成を確認した。

縄文時代中期以前の集落は、熊野川以南の河岸段丘上に伊豆宮Ⅱ遺跡や大山町東黒牧遺跡などが形成されており、扇状地上にはほとんど認められない。扇状地扇頂部付近から扇尖部に立地するようになるのは後期後半になってからであり、吉岡遺跡などごく少数が存在する。扇状地上に立地する集落が増加するのはその後の晩期後半であり、第86図に示すように北陸自動車道以南の標高30～80mの扇状地上に形成されている。熊野川の北を流れる熊野川支流土川の右岸に所在するものが多く、次いで熊野川右岸、神通川右岸に認められる。

この中で住居が確認されているのは吉岡遺跡のほか、悪王寺遺跡では住居の一部とみられる溝が検出された(岡崎1969)。また大利屋敷遺跡で径約1.8mの住居状円形土坑が検出された(富山市教委1986)ほか、栗山A遺跡で川跡とみられる落ち込みが認められている(富山市教委1987)。これらのことから各々の遺跡では少なからず集落の形成があることが予想される。

これらの遺跡からは打製石斧が多く出土する。富山市北部の神通川・常願寺川扇状地扇端部においても、本遺跡周辺同様、晩期後半に遺跡分布が増える傾向が認められるとの指摘があり、やはり打製石斧が多く出土するほか、石廬丁の類とみられる穂つき状石器が豊田遺跡(富山市教委1974)で出土するなどのことから、湿地を利用した農耕の存在が想定されている(小島1987)。吉岡遺跡の所在する市南部の遺跡はいずれも扇頂部付近から扇尖部に立地するが、微視的には吉岡遺跡や悪王寺遺跡に見るように河川のほとりの湿地状の



第86図 縄文時代晩期遺跡の分布 (1 : 50,000)

部分に占地しているものが多い。集落そのものが湿地状の部分に形成される現象は、単に湿地を利用した農耕ばかりでなく、新潟県青田遺跡における掘立柱建物の占地形態（新潟県埋蔵文化財調査事業団ほか）にみるように、川というものを強く意識した集落作りという側面が強いように思われる。（古川）

2 第12地区縄文時代晩期終末期の遺物・遺構について

土器について

第12地区では、比較的古くまとまった晩期終末期の土器群が出土し、今回の報告ではⅢ～Ⅷ群に相当し、これらの土器群について多少触れたい。

Ⅲ群は、下野式の指標とされる無文や条痕地文、二条沈線間に刺突文や押し引き列点文を配す土器群で、二条沈線を省略した列点文のみの例も存在し、この土器群の中でも新しいと考えられる例が見られる。

Ⅳ群は、浮線文による上字文を有す土器である。

Ⅴ群は、沈線による上字文を有す土器である。ともに大洞A～A'式に平行すると思われる。

Ⅵ群は、沈線により施文され、Ⅴ群とⅦ・Ⅷ群との中間と言える土器群である。

Ⅶ・Ⅷ群は、沈線による三角形文・連弧文を特徴とする。沈線による三角形文や連弧文の他に刺突文が施文される例があり、下野式の要素を持つ例も存在するが、三角形文そのものが上字文の退化したような例や三角形文の内側の器内を薄く挟む例、浮線文的な沈線による例が存在することより上字文を持つ土器群の影響がみられる。また、集合沈線による三角形文内に刺突文を施す例は柴山山村遺跡の資料中に見られ、その関係が注目される。

Ⅷ群は、沈線文が細く、鋭い点より他の土器群よりやや新しい可能性がある。

Ⅸ群は、平行線文を特徴とする。いずれも破片のため文様の全体像を把握できないが、単純に横位の平行沈線が施文されていたと思われ、条痕文を除き、最も簡略化された文様である。

Ⅹ群は、単純な器形の粗製土器を一括しているが、その中でも胴部が条痕文地文、口縁部が肥厚して結条体圧痕文や押し文が施文され、口縁部下の凹線が見られる例が主体をなしている。類例として富山県上市町丸山A遺跡等に存在し、下野式と柴山山村式の間位置付けられる土器群の中に含まれている。また、本群の中には口縁部下に磨きを施した無文帯を有す例（Ⅹ群 a 1・b 1・i 類）、口縁部から条痕文を施す例（Ⅹ群 b 4・h 類）も少量存在する。前者は赤彩された土器も認められ、粗製土器とするには多少問題があるが、この磨きの無文帯が簡略化されて凹線化したと考えるならば、本群の主体となる凹線を有す粗製土器の祖型として捉えられるのではないだろうか。後者に関しては口縁部が肥厚気味であること、口縁部に結条体圧痕文を有すことより凹線を有す粗製土器の系譜的に連なると考えられ、柴山山村遺跡や柴山沼底貝塚の土器群中に存在する口縁部に刻目を有し、口縁部下より条痕文が施される土器に関係すると思われ、本遺跡における粗製土器でも新しい様相と思える。

Ⅺ群は、「く」の字状口縁部を有す粗製土器で、井口遺跡等に存在する「く」の字状口縁部の土器に系統的に連なる可能性が考えられる。

以上より本遺跡の晩期終末期の土器群を下野式と柴山山村式の間を繋げる時期として捉えられるが、問題として本土器群が時期的に細分できるのか否かという点が存在する。この点についてはⅩ群の粗製土器を見ると口縁部下が磨き無文帯→凹線→凹線の消失という流れを仮定でき、更に凹線も複数条から1条へと変遷する可能性も存在するが、それらが併存している可能性もあり、いずれによるものなのか今後の資料増加により明らかになることを期待したい。

石器について

第12地区の晩期終末期の石器群は、磨製石斧・打製石斧・石鏃・石皿・磨石・敲打具・凹石などにより構成されている。磨製石斧・打製石斧の出土がその他の器種よりも多い傾向が認められる。そこでこの2器種について多少触れて石器のまとめとしたい。

磨製石斧は、未製品が多く、本地区周辺で製作され、本地区に廃棄されたと考えられる。石材は常願寺川水系に産すると思われる一般的なデイスaitとされる系統の例が多く、石材入手もさほど遠距離より運んできたとは考えられない。

打製石斧は接合する例が多く存在し、新潟県の中期の遺跡となるが五丁麥遺跡では打製石斧887点中接合完形品が5点しかなく、比較すると本遺跡の接合完形品の出土比率が極端に多いと言え、何らかの原因が存在すると考えられる。この原因としてa・bが考えられる。

a：使用時に破損した打製石斧が接合している。

b：製作時に欠損し、製作放棄したものが接合している。

aに関しては、使用した場所が問題となる。これらの打製石斧が出土している遺物包含層は土器・石器・自然石が足の踏み場も無いほど濃密な出土状況から葬井捨場の様相を示し、配石炉の存在より居住を示すことから生活拠点の場であったことが明らかである。打製石斧は当時における食物生産の主要な道具のひとつとするならば使用場所は食物生産の場となり、打製石斧の使用による破損も多くはその場で発生すると考えられる。一般的に食物生産の場は居住域外に位置し、打製石斧の使用による破損も居住域外で発生することが多くなる。また、食物を生産する場は居住域に近接することもあるが、比較的広範囲に渡って生産活動を実施しなければ一家族を養うことは不可能と思われる。当然打製石斧の破損地点も広範囲で生じており、再生不可能な破損が生じた場合に柄に装着された部分はそのまま持ち帰るだろうが、分離した部分は仕事の妨げにならないところへ捨てていくのが自然に思われる。このように考えると使用により破損した打製石斧が接合して一個体になるような事例は居住域より出土することが少なくなると予想される。

bに関しては、道具の製作が居住域に近接して行なわれていなければならないが、この点に関しては磨製石斧の未製品が多く出土していることから少なくとも磨製石斧という道具は近接した場所で製作されていたことになる。更に、打製石斧と磨製石斧は同じような石材が使用されており、磨製石斧の製作段階においても剥離工程を伴う例も存在することより磨製石斧が製作され、打製石斧は製作されていないとは考え難く、そして磨製石斧未製品が捨てられた場所に打製石斧の未製品が捨てられるということは充分納得できることである。また、本遺跡出土の打製石斧の中には左右非対称な例や一部が粗削りのままの例、片面の全面がほとんど無剥離に近い例、剥離の後縁が鋭利である例等の製作途中の放棄を思わせる打製石斧も多く、接合資料も剥離の失敗により製作放棄がなされたと解釈することは充分可能である。

以上より本遺跡出土の打製石斧接合資料は、製作途中の失敗による放棄である可能性が高いと考えられる。また、折損部位と断面により折損原因が理解できるという見解もあるが、石割りをすると加撃点以外の部分(節理面以外)から割れることや加撃と同時に地面等に接触することがあり、当然加撃点と異なる状態のリング等を形成することとなり、使用時の折損断面と明確な差異があるか疑問である。そして断面のみにより折損が使用によるかを知るにはその時代・地域における通常の打製石斧の装着方法と使用方法が明らかにならない限り、因果関係を追求することはできないと思える。

磨製石斧と打製石斧から見た本遺跡の様相は、磨製石斧未製品がかなり高い比率で出土すること、完成品とは思えない打製石斧が存在することよりその製作場所が今回の調査区に接していたことを窺わせ、明らか

に使用されている打製石斧も当然存在しており、中に使用による摩滅痕が顕著に認められる例も出土していることから製作から使用に渡るものが今回の調査区に廃棄されていたことが明らかであり、両者ともに出土量は普通であることから、この2器種に関しては自給自足していたことが理解できる。なお、晩期の打製石斧の未製品と使用した例が混在して出土している例として下老子笹川遺跡C区が存在する。

遺構について

第12地区の縄文時代遺構は、石組炉・配石・穴が検出されているが、穴に関しては1基より後期の土器細片が極少量出土した以外皆無であり、包含層が形成される以前に埋没していたと考えられ、晩期の遺構は石組炉と配石だけとなる。

石組炉は、周囲に掘り込みや柱穴等は存在しておらず、炉自体が単独なのか、あるいは簡素な上層構造を持つにすぎなかったことを示すと思われ、炉内の焼上は焼土化が弱く、少量であることより各々の使用期間が短期間であることを示すと思われる。また、1・2号石組炉の周囲は足の踏み場がない程遺物が散乱した出土状況で、炉が使用されなくなった後も土器を中心とする遺物群が廃棄され続けられていたことになり、廃棄を継続した居住施設が近接した未調査区に存在することを予想させる。以上より各石組炉は短期間の使用で、石組炉が使用された期間と石組炉を含めたある程度の範囲に遺物を廃棄した時期に分けられる。

配石は、やや大きめの石材が集中して検出されているだけで、その直下に土坑等も見られず、性格不明である。

3 弥生時代

弥生時代は、吉岡遺跡の第12地区、経路遺跡の第3・4地区より遺構が検出されている。第12地区では穴2基が縄文晩期包含層に近接して検出されており、それより小松式の甕が出土している。第3・4地区では小松式に伴う穴群が検出されている。第3・4地区では、比較的集中した状況で穴群が検出されており、穴の中には特徴的な形状を呈した事例が見られ、その点について触れてみたい。

特徴的な穴としては、堅穴住居状を呈するSK5、三日月状あるいは弧を描いた溝といった平面形を有するSK6・7・13・14がある。

SK5は、堅穴住居にするには炉等の施設が無く不確実なものと言えるが、全体の規模と形状が堅穴住居とするのに充分であること、底面は硬化面は認められないけれどもほぼ水平・平坦であること、底面直上より遺棄を思わせる甕底部が出土していることなどから本穴の性格は堅穴住居と考えたい。第3・4地区では堅穴住居を想定できるような遺構はSK5だけで、未調査区の範囲や検出された遺構の密度から想像すると当時の集落は小規模なものであったと考えられる。

三日月状あるいは弧を描いた溝といった平面形の穴は、前記した4基があげられる。一般に穴・土坑の平面形は円形・楕円形・方形・長方形といったように基本的な平面形を呈するかあるいは不定形となる例が多く、本例のように基本的な平面形以外で、定型化した平面形をもつ土坑は珍しい。特殊に定型化した土坑という点から考えると特定の性格を有していたことを匂わせる。今回の調査で、その性格に関して明らかにすることはできなかったが、類似例の増加により解明されることに期待する。

4 古代

古代では、住居跡・掘立柱建物跡からなる居住域と畑地の生産域が存在している。居住域は吉岡遺跡に限定され、吉岡遺跡の中でも西端部に遺構のまとまりが見られ、遺物の分布においても同様の傾向が認められ

ることから居住城の中心があったものと考えられる。畑址は吉岡遺跡・経力遺跡ともに広い範囲より検出されている。また、畑址と居住城との新旧関係は第7・8・調整池地区S I 1・2が畑址よりも古く、第7・8・調整池地区S I 3・SB 1～5が畑址よりも新しくなり、その他の遺構は不明である。これより畑址と居住城との新旧関係はほぼ同じ時間内に併存しており、一時的に居住城になったり、畑になったりしていると思われる。

5 中世

中世では、遺物・遺構が吉岡遺跡・経力遺跡の広い範囲に散在するように検出されているが、地区により時期や性格が多少異なるようである。

経力遺跡第5・6地区は、赤かわらけ等により戦国時代の所産と思われる、遺物・遺構の検出状況から遺跡の中心部は今回の調査区の東方に存在することが予想される。

経力遺跡第3・4地区は、かわらけ等から室町期の所産と思われる、第4地区の中央部には多数の柱穴が検出されており、ここにおいて建て直しをくり返しながらかや長期に渡り複数の掘立柱建物が存在したことが明らかとなっている。その他の地区にも掘立柱建物が検出されているが、その構築時期を明らかにするだけの資料が無く、詳細は不明である。

参考文献

- 岡崎卯一 1969 「富山市悪王寺遺跡（假称）の試掘」『富山考古学会連絡誌33号』
- 小島俊彰 1987 「第二章 縄文時代」『富山市史 通史上巻』富山市
- 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団・新潟県教育委員会 2001 「シンポジウム「よみがえる青田遺跡」川辺の縄文集落」
- 富山市教育委員会 1974 「富山市豊田遺跡発掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 1986 「大和屋敷遺跡試掘調査報告書」
- 富山市教育委員会 1987 「昭和61年度富山市埋蔵文化財調査概要」
- 吉岡康暢 1971 「石川県下野遺跡の研究」『考古学雑誌』第56巻4号
- 酒井重洋 1976 「上市町眼口新丸山A遺跡」『大境』第6号 富山考古学会
- 酒井重洋 1980 「井口村井口遺跡出土の縄文晩期の土器」『大境』第10号 富山考古学会
- 増子康眞 1982 「東海からみた北陸における弥生式土器成立の過程」『大境』第12号 富山考古学会
- 湯尻修平 1983 「柴山出村式土器について」『北陸の考古学』石川考古学研究会
- 久田正弘 1984 「柴山出村式土器の検討」『史館』第16号
- 新潟県教育委員会 1992 「五丁歩遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査報告書 第57集 五丁歩遺跡 十二本木遺跡』
- 金三津英則 1999 「(1)下老子笹川遺跡 ①C区」財団法人富山県文化振興財団 埋蔵文化財調査事務所『埋蔵文化財調査概要 平成10年度』

写 真 图 版



1. 第2地区全景



2. 第3地区全景



3. 第4地区全景

PL2



1. 第6地区全景



2. 第5地区全景



1. 第7地区全景



2. 第8地区全景

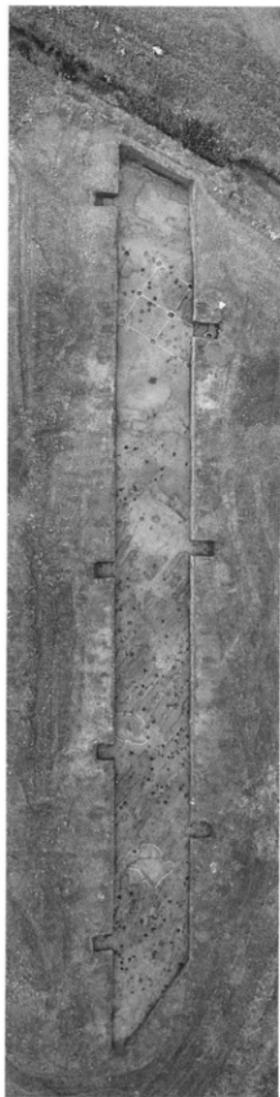


3. 調整池地区西半部全景



4. 調整池地区東半部全景

PL4



1. 第9地区全景



2. 第10地区全景

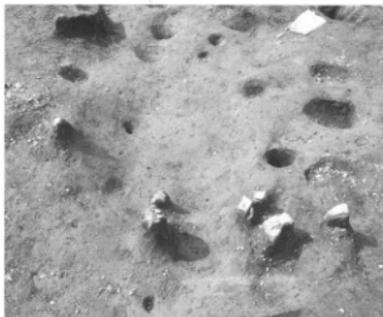


第12地区全景

PL6



1. 第3地区SK9



2. 第3地区SK17



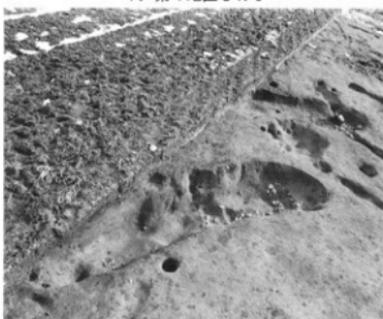
3. 第4地区SK5



4. 第4地区SK6



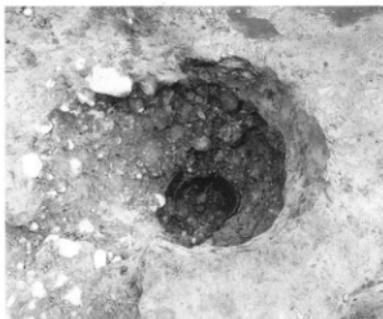
5. 第4地区SK7



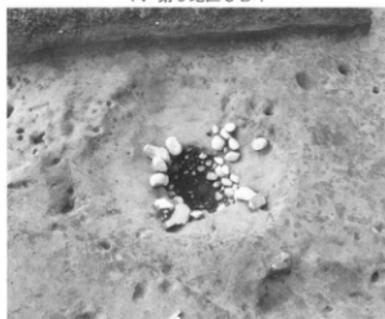
6. 第4地区SK13·14



1. 第3地区SB1



2. 第4地区SE1



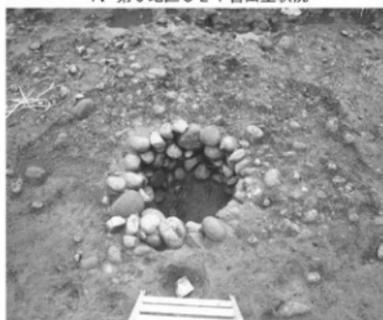
3. 第3地区SE1



4. 第3地区SE1 箸出土状况



5. 第5地区SE2



6. 第5地区SE3



1. 第5地区SE 4



2. 第6地区SE 1



3. 第6地区SE 5



4. 第5地区SX 1



5. 第7地区S 1 1



6. 第7地区S 1 1 壘・配石



1. 第7地区S I 2



2. 第8地区S I 3



3. 第7地区S B 1



4. 第8地区S B 3·4



5. 第8地区S B 5



6. 第7地区S B 6

PL10



1. 第7地区SB 2



2. 調整池地区SB 7



3. 第9地区SK 2



4. 第10地区S I 1



5. 第9地区SB 1



6. 第9地区SB 2



1. 第12地区1号石組炉



2. 第12地区1号石組炉遺物出土状況



1. 第12地区2号石組炉



2. 第12地区2号石組炉遺物出土状況



3. 第12地区1・2号配石



米軍撮影航空写真（昭和21年）手前が吉岡遺跡、奥が経力遺跡

PL14



1. 調査区全景（北から）第1次調査区



2. A区全景（南西から）



1. B区全景（北から）



2. C区全景（真上から・右が北）

PL16



1. SD01完掘状況（西から）



2. SD02完掘状況（南東から）



3. SD03土層堆積状況（南西から）



4. SD04土層堆積状況（南西から）



5. SD04青磁出土状況（北から）



6. SD04珠洲焼出土状況（南西から）



7. A区畑址検出状況（西から）



8. A区畑址完掘状況（西から）



1. B区基本層序 (西から)



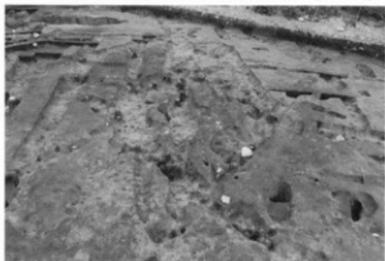
2. 包含層遺物出土状況 (南東から)



3. 包含層遺物出土状況・遺構検出状況 (西から)



4. 包含層遺物出土状況 (南東から)



5. B区畑址遺物出土状況 (西から)



6. 畑址土層堆積状況 (南西から)



7. 畑址須恵器出土状況 (西から)



8. 畑址土師器出土状況 (北西から)

PL18



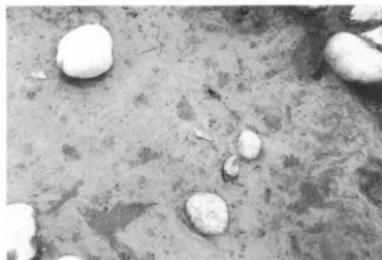
1. SD05遺物出土状況(南から)



2. SD05土層堆積状況(南西から)



3. SD05漆梳出土状況(南西から)



4. SD05石鏃出土状況(北から)



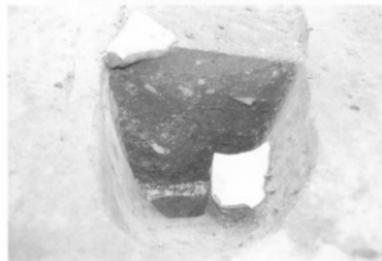
5. SD05の西側遺構完掘状況(北から)



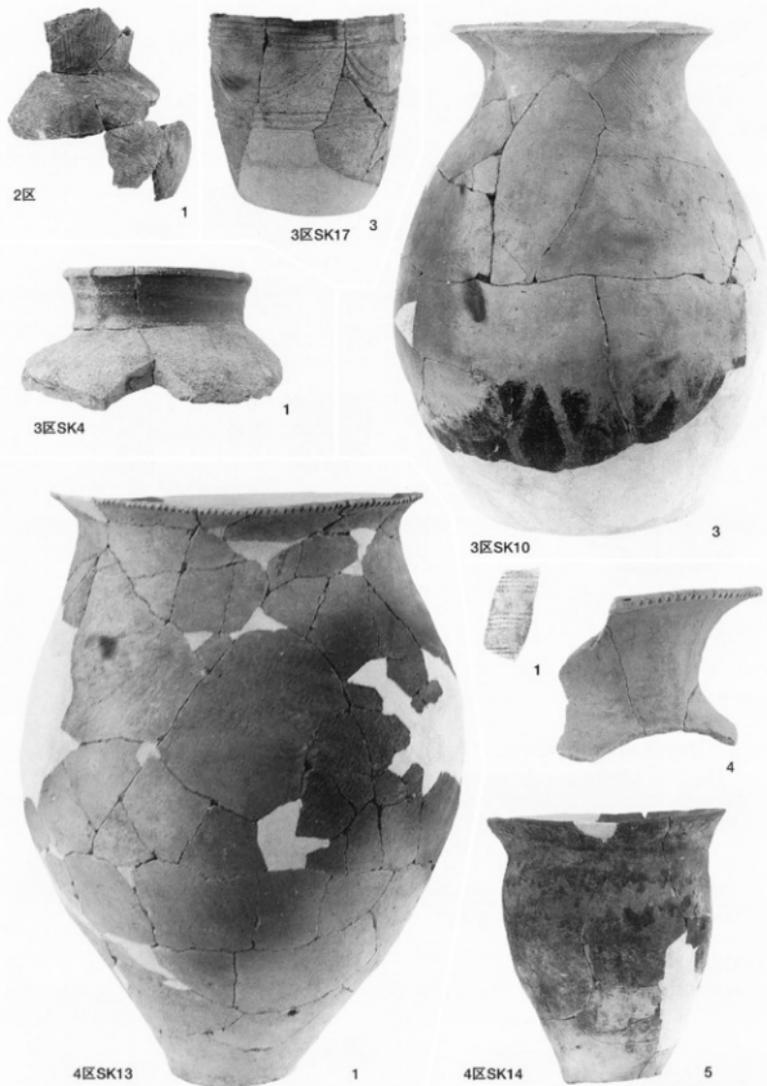
6. SK01土師器出土状況(北東から)



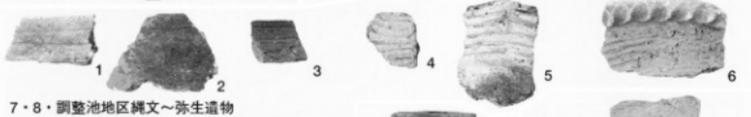
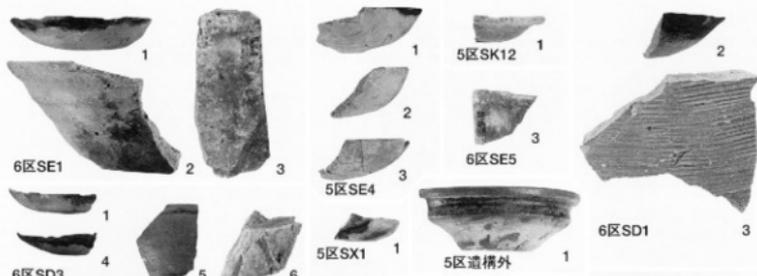
7. SK02土層堆積状況(北東から)



8. SK01土層堆積状況(南東から)



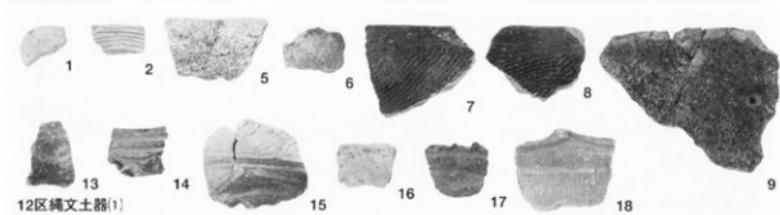
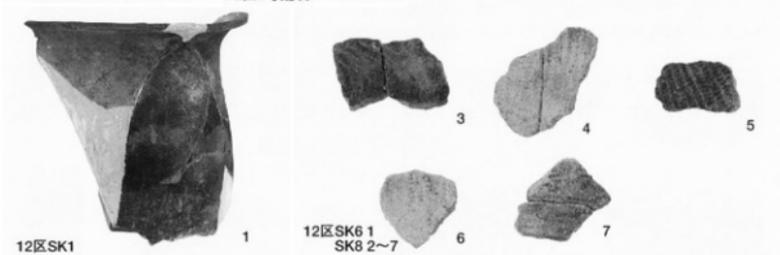
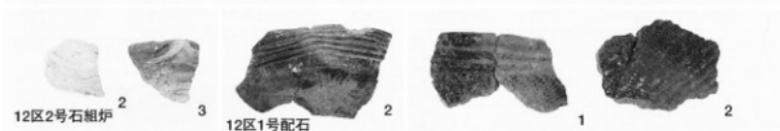
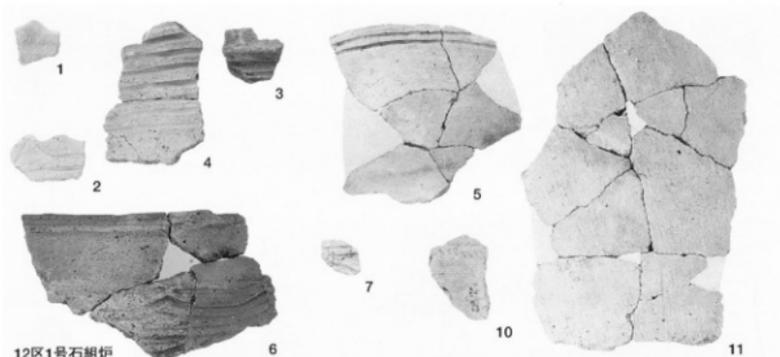
PL20



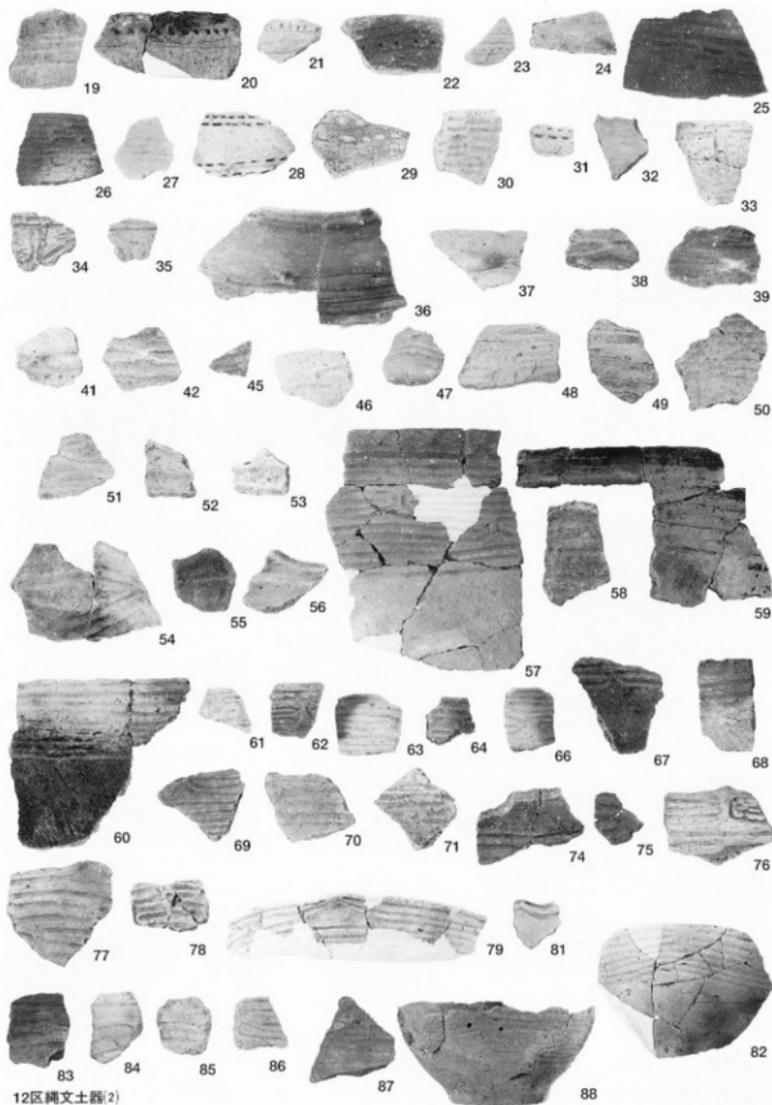
7・8・調整池地区遺構外古代遺物



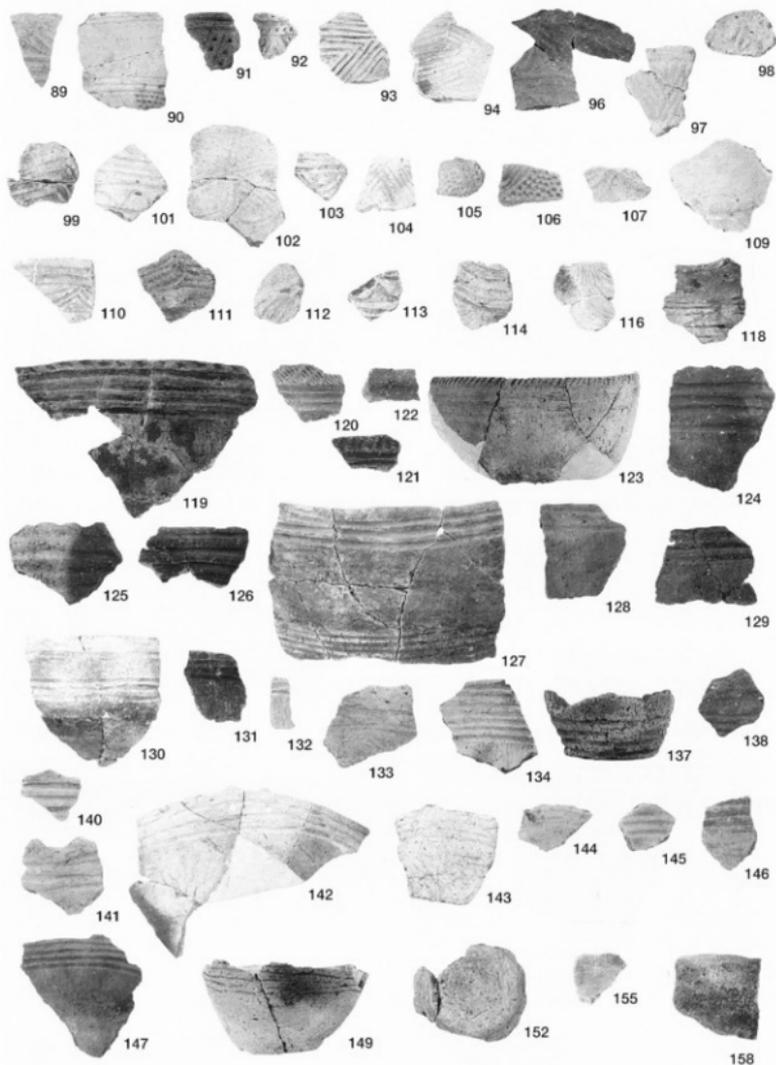
遺物(2)



PL22

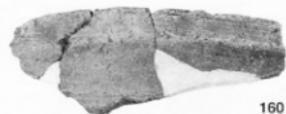


12区縄文土器(2)

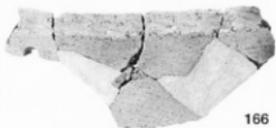


12区縄文土器(3)

PL24



160



166



168



182



208



161



179



193



213



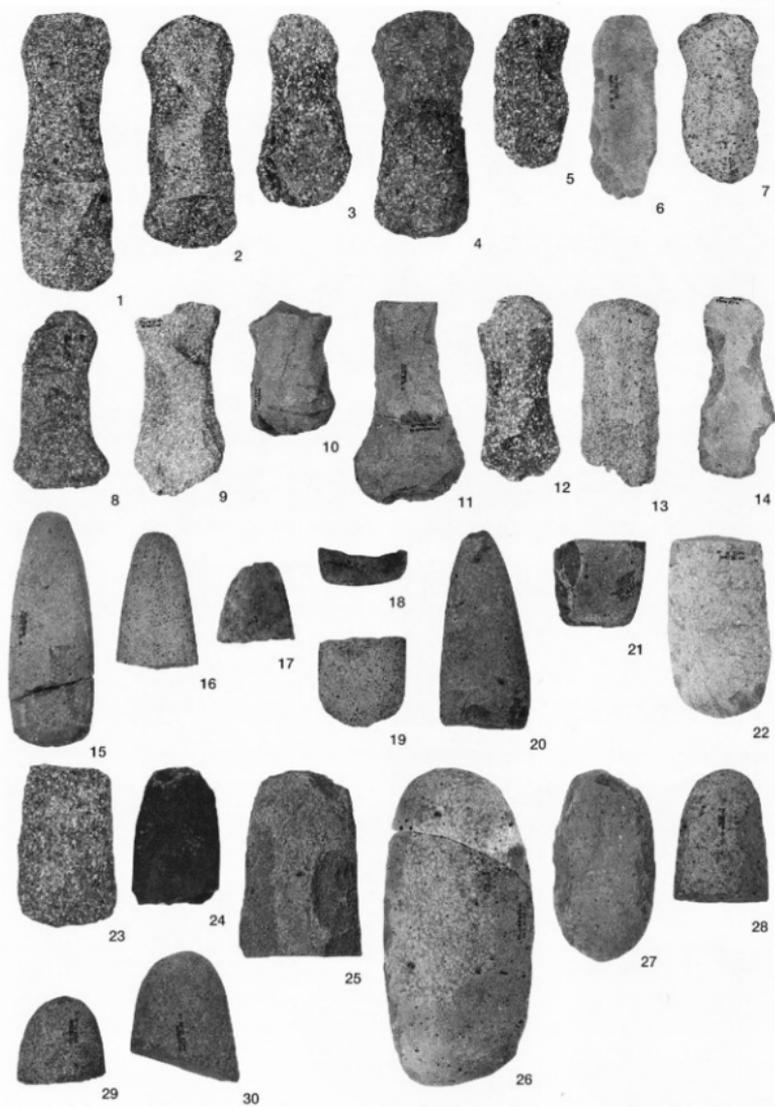
223



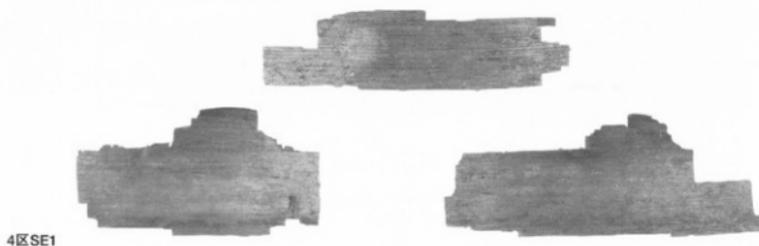
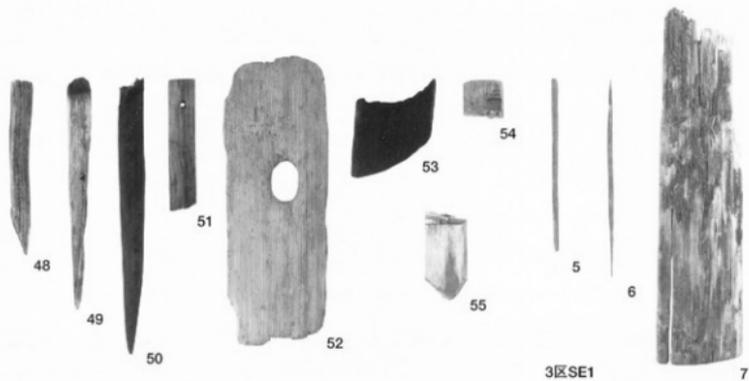
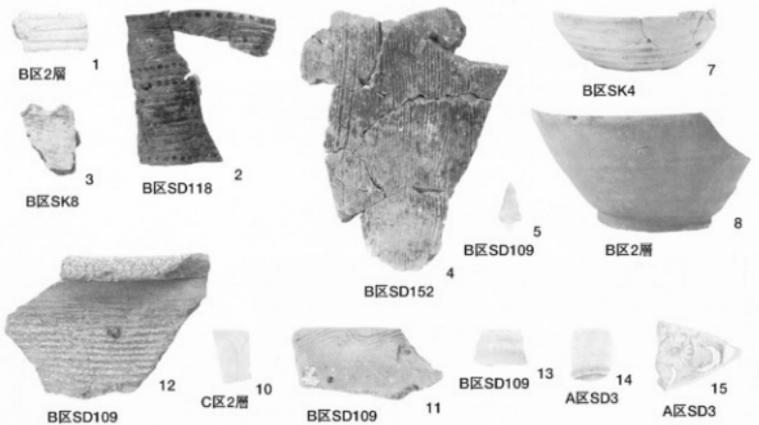
229

12区縄文土器(4)

遺物(6)







抄 録

ふりがな	とやまよしおかいせき・きょうりきいせきはくつちょうさほうこくしょ
書名	富山市吉岡遺跡・経力遺跡発掘調査報告書
副書名	珠泉ニュータウン造成事業に伴う埋蔵文化財調査報告
巻次	

シリーズ名 富山市埋蔵文化財調査報告

シリーズ番号 122

編著者名 折原洋一 古川知明 風沢祐一

編集機関 山武考古学研究所／〒286-0045 千葉県成田市並木町221番地 TEL 0476-24-0536

発行機関 富山市教育委員会／〒930-0803 富山県富山市下新木町5番12号 TEL 076-442-4246

発行年月日 西暦2002年3月1日

所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
吉岡遺跡 ヨシカワノキ	富山市吉岡 ヨシカワノキ	16201	524	36度	137度	20000411～ 20000708	1.575	住宅団地造成
				37分	13分	20001226～ 20010731	4.982	
				50秒	45秒			
経力遺跡 キョリキ	富山市経力 キョリキ	16201	525	36度	137度	20001226～ 20010731	1.877	住宅団地造成
				37分	14分			
				50秒	00秒			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項
吉岡遺跡	集落・ 生産	縄文	榎、配石、穴	縄文土器、石斧、石鏃、凹石、石皿、敲打石、磨き石				縄文時代晩期終末期の遺物が出土している。
		弥生	穴	弥生土器				
	古代	掘立柱建物跡、掘立柱建物跡、畑	土師器、須恵器					
		中世	掘立柱建物跡、穴、井戸、溝、畑址	土師器、青磁、白磁、珠洲焼、八尾焼、瀬戸尖底、信楽焼、碗、漆碗、銭貨、著、曲物、下駄				
経力遺跡	集落・ 生産	近世	溝	陶磁器				
		弥生	穴	弥生土器				
		古代	遺址	土師器、須恵器				
		中世	掘立柱建物跡、穴、井戸、溝	土師器、青磁、白磁、珠洲焼、箸、曲物				

富山市埋蔵文化財調査報告122

富山市吉岡遺跡・経力遺跡発掘調査報告書

—珠泉ニュータウン造成事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告—

2002年（平成14年）3月1日発行

発行 富山市教育委員会

編集 山武考古学研究所

〒286-0045

千葉県成田市並木町221番地

Tel 0476-24-0536

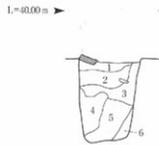
Fax 0476-24-3657

印刷 ㈱文化総合企画

〒286-0201

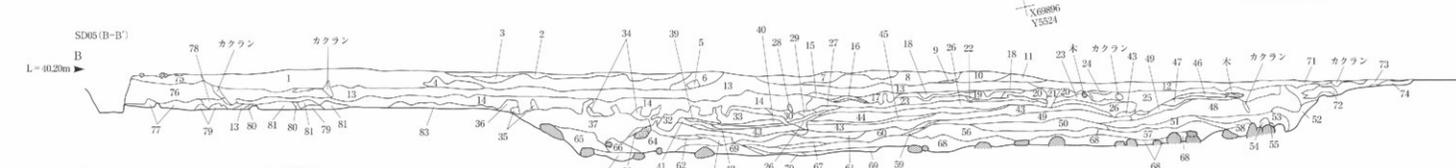
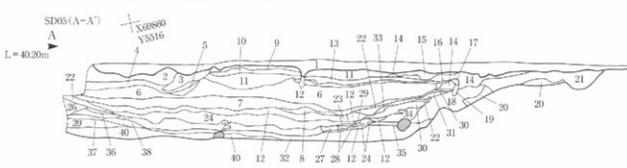
千葉県富里町日吉台1-23-12

Tel 0476-93-0593



- SK01
- 1: 黄褐色土
 - 2: 暗褐色土+黄褐色土+フロック
 - 3: 暗褐色土+黄褐色土+フロック少量
 - 4: 暗褐色土+黄褐色土+フロック
 - 5: 暗褐色土+黄褐色土+フロック少量
 - 6: 黄褐色土+赤褐色土

- SD05(A-A')
- 1: 暗褐色土
 - 2: 赤褐色土
 - 3: 黄褐色土(埋心)
 - 4: 灰白色土
 - 5: 赤褐色土
 - 6: 灰白色土
 - 7: 灰白色土(埋心)+灰白色土
 - 8: 灰白色土(シロトコ)
 - 9: 灰白色土+赤褐色土+黄褐色土
 - 10: 灰白色土
 - 11: 灰白色土+灰白色土+黄褐色土
 - 12: 黄褐色土
 - 13: 黄褐色土+灰褐色土
 - 14: 黄褐色土
 - 15: 黄褐色土
 - 16: 黄褐色土(162年埋心)
 - 17: 黄褐色土+灰褐色土
 - 18: シロトコ+黄褐色土
 - 19: 暗褐色土+灰褐色土+フロック
 - 20: 赤褐色土+黄褐色土
 - 21: 暗褐色土(シロトコ)
 - 22: 暗褐色土
 - 23: 灰褐色土
 - 24: 灰褐色土
 - 25: 黄褐色土+灰褐色土
 - 26: 黄褐色土+赤褐色土
 - 27: 黄褐色土
 - 28: 黄褐色土
 - 29: 黄褐色土+黄褐色土
 - 30: 黄褐色土+黄褐色土
 - 31: 黄褐色土
 - 32: 黄褐色土
 - 33: 黄褐色土
 - 34: 黄褐色土
 - 35: 黄褐色土
 - 36: 黄褐色土
 - 37: 黄褐色土
 - 38: 黄褐色土
 - 39: 黄褐色土
 - 40: 黄褐色土
 - 41: 黄褐色土
 - 42: 黄褐色土
 - 43: 黄褐色土
 - 44: 黄褐色土
 - 45: 黄褐色土
 - 46: 黄褐色土
 - 47: 黄褐色土
 - 48: 黄褐色土
 - 49: 黄褐色土
 - 50: 黄褐色土
 - 51: 黄褐色土
 - 52: 黄褐色土
 - 53: 黄褐色土
 - 54: 黄褐色土
 - 55: 黄褐色土
 - 56: 黄褐色土
 - 57: 黄褐色土
 - 58: 黄褐色土
 - 59: 黄褐色土
 - 60: 黄褐色土
 - 61: 黄褐色土
 - 62: 黄褐色土
 - 63: 黄褐色土
 - 64: 黄褐色土
 - 65: 黄褐色土
 - 66: 黄褐色土
 - 67: 黄褐色土
 - 68: 黄褐色土
 - 69: 黄褐色土
 - 70: 黄褐色土
 - 71: 黄褐色土
 - 72: 黄褐色土
 - 73: 黄褐色土
 - 74: 黄褐色土
 - 75: 黄褐色土
 - 76: 黄褐色土
 - 77: 黄褐色土
 - 78: 黄褐色土
 - 79: 黄褐色土
 - 80: 黄褐色土
 - 81: 黄褐色土
 - 82: 黄褐色土
 - 83: 黄褐色土
 - 84: 黄褐色土
 - 85: 黄褐色土
 - 86: 黄褐色土
 - 87: 黄褐色土
 - 88: 黄褐色土
 - 89: 黄褐色土
 - 90: 黄褐色土
 - 91: 黄褐色土
 - 92: 黄褐色土
 - 93: 黄褐色土
 - 94: 黄褐色土
 - 95: 黄褐色土
 - 96: 黄褐色土
 - 97: 黄褐色土
 - 98: 黄褐色土
 - 99: 黄褐色土
 - 100: 黄褐色土



- SD05(B-B')
- 1: 暗褐色土+赤褐色土+黄褐色土
 - 2: 赤褐色土+灰褐色土
 - 3: 暗褐色土
 - 4: 黄褐色土+暗褐色土+フロック
 - 5: 暗褐色土
 - 6: 黄褐色土+暗褐色土+黄褐色土
 - 7: 暗褐色土+赤褐色土
 - 8: 暗褐色土
 - 9: 暗褐色土
 - 10: 暗褐色土
 - 11: 暗褐色土+灰褐色土
 - 12: 暗褐色土
 - 13: 暗褐色土
 - 14: 暗褐色土
 - 15: 暗褐色土
 - 16: 暗褐色土
 - 17: 暗褐色土
 - 18: 暗褐色土
 - 19: 暗褐色土
 - 20: 暗褐色土
 - 21: 暗褐色土
 - 22: 暗褐色土
 - 23: 暗褐色土
 - 24: 暗褐色土
 - 25: 暗褐色土
 - 26: 暗褐色土
 - 27: 暗褐色土(やや砂質)
 - 28: 暗褐色土
 - 29: 暗褐色土
 - 30: 暗褐色土
 - 31: 暗褐色土+黄褐色土
 - 32: 暗褐色土+赤褐色土
 - 33: 暗褐色土+赤褐色土
 - 34: 暗褐色土+赤褐色土
 - 35: 暗褐色土+赤褐色土
 - 36: 暗褐色土+赤褐色土
 - 37: 暗褐色土+赤褐色土
 - 38: 暗褐色土+赤褐色土
 - 39: 暗褐色土+赤褐色土
 - 40: 暗褐色土+赤褐色土
 - 41: 暗褐色土+赤褐色土
 - 42: 暗褐色土+赤褐色土
 - 43: 暗褐色土+赤褐色土
 - 44: 暗褐色土+赤褐色土
 - 45: 暗褐色土+赤褐色土
 - 46: 暗褐色土+赤褐色土
 - 47: 暗褐色土+赤褐色土
 - 48: 暗褐色土+赤褐色土
 - 49: 暗褐色土+赤褐色土
 - 50: 暗褐色土+赤褐色土
 - 51: 暗褐色土+赤褐色土
 - 52: 暗褐色土+赤褐色土
 - 53: 暗褐色土+赤褐色土
 - 54: 暗褐色土+赤褐色土
 - 55: 暗褐色土+赤褐色土
 - 56: 暗褐色土+赤褐色土
 - 57: 暗褐色土+赤褐色土
 - 58: 暗褐色土+赤褐色土
 - 59: 暗褐色土+赤褐色土
 - 60: 暗褐色土+赤褐色土
 - 61: 暗褐色土+赤褐色土
 - 62: 暗褐色土+赤褐色土
 - 63: 暗褐色土+赤褐色土
 - 64: 暗褐色土+赤褐色土
 - 65: 暗褐色土+赤褐色土
 - 66: 暗褐色土+赤褐色土
 - 67: 暗褐色土+赤褐色土
 - 68: 暗褐色土+赤褐色土
 - 69: 暗褐色土+赤褐色土
 - 70: 暗褐色土+赤褐色土
 - 71: 暗褐色土+赤褐色土
 - 72: 暗褐色土+赤褐色土
 - 73: 暗褐色土+赤褐色土
 - 74: 暗褐色土+赤褐色土
 - 75: 暗褐色土+赤褐色土
 - 76: 暗褐色土+赤褐色土
 - 77: 暗褐色土+赤褐色土
 - 78: 暗褐色土+赤褐色土
 - 79: 暗褐色土+赤褐色土
 - 80: 暗褐色土+赤褐色土

付図2 第1次調査地区 SD05・SK01 (B・C区)

